学校番号	1205

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	新　高校の数学Ｂ　（数研出版）						
副教材等	自主制作プリント等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業用のノートを用意してください。
・授業では、自ら考えて課題を解決する活動を行います。積極的に授業に参加してください。
・ある課題に関して、周りの人と協同で考える活動も行います。その過程で、自分の考えを発表したり、話し合ったりする活動も行います。
・問題を解くときは、ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方を理解することを大切にしてください。また、間違った問題は、自分がどこでつまずいているかを知るための大切なものです。
・求められた課題は、最後まであきらめずに取り組み、必ず提出するようにしてください。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察できる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数列とその和	数列 等差数列 等比数列 和の記号Σ 階差数列	a：数列の意味を理解し，一般項から初項や第5項を求めたり，簡単な規則性を持つ数列からその規則性を見つけて一般項を求めたりすることができる。等差数列と等比数列について，一般項や和を求めることができる。漸化式の意味を理解し，等差数列と等比数列を初項の値と漸化式で表すことができる。初項の値と漸化式から等差数列と等比数列の一般項を求めることができる。数学的帰納法の意味やそれを用いた証明の方法を理解している。自然数の和を求めることができる。 b：数列の規則性について考察できる。与えられた2つの項から，等差数列と等比数列の一般項を求めることができる。等差数列の項数を求めてから，その和を求めることができる。各項が積の形で表された数列の和を，Σの性質を利用して求めることができる。・階差数列ともとの数列の一般項との関係について考察することができる。 c：身の回りの数の並びに規則性があるか調べ，数列として一般項を用いて表そうとしている。一般項を用いて数列を表すことのよさをとらえようとしている。Σの性質や，自然数の和，自然数の2乗の和を利用して，いろいろな数列の和を求めようとしている。階差数列を利用して，もとの数列の一般項を求めようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 学習プリント ノート	学習プリント ノート 振り返りシート 観察

2学期	漸化式と数学的帰納法	漸化式と一般項 数学的帰納法	a:等差数列と等比数列を初項の値と漸化式で表すことができる。初項の値と漸化式から等差数列と等比数列の一般項を求めることができる。数学的帰納法を用いた証明の方法を理解している。 b: 初項の値と an+1=pan+q の形で表された漸化式から一般項を求めることができる。数学的帰納法を用いて証明を行うことができる。 c: 数列の隣り合う２つの項の間の関係について考えようとしている。数学的帰納法を用いて証明した命題について，他にも証明方法があるか考え比較しようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 学習プリント ノート	学習プリント ノート 振り返りシート 観察
	確率分布	確率 確率変数と確率分布 二項分布 確率密度関数	a: 確率の基本的な法則を理解し，排反事象の確率を求めたり，余事象を利用して確率を求めたりすることができる。確率変数の確率分布を，表に表すことができる。確率変数の平均・分散・標準偏差を求めることができる。二項分布の意味を理解している。二項分布にしたがう確率変数の平均・分散・標準偏差を求めることができる。与えられた確率密度関数から，確率変数が特定の範囲となる確率を求めることができる。 b: 組合せを利用して確率変数の平均を求めることができる。二項分布にしたがう確率変数の確率分布を表に表すことができる。 c: 身の回りのデータで，確率変数として考えられるものを見つけ，その平均・分散・標準偏差を調べ，データの特徴を把握しようとしている。身の回りのデータで，二項分布を利用して考えようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 学習プリント ノート	学習プリント ノート 振り返りシート 観察

3学期	確率分布	正規分布 二項分布と正規分布	a：正規分布表を用いて，標準正規分布にしたがう確率変数が，特定の範囲となる確率を求めることができる。正規分布にしたがう確率変数を標準化することができる。二項分布と正規分布の関連について理解し，二項分布を正規分布に近似することができる。 b：身の回りのデータを，正規分布を用いて考察し，特定の範囲にある個数などを求めることができる。 c：身の回りのデータで，正規分布にしたがう確率変数があるか調べ，データの特徴を把握しようとしている。二項分布が正規分布に近似できることを利用して，いろいろな確率を求めようとしている。	確認テスト 定期考査	定期考査 学習プリント ノート	学習プリント ノート 振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度